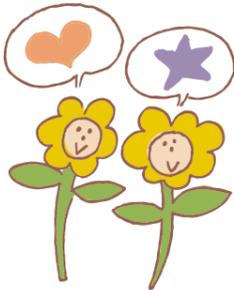


多言語能力を育むために 子どもと一緒に できること

帰国前
&
帰国後
日常的に
レッスン!

第一言語(最も得意な言語)以外の言語「他言語」を使うことができる力、多言語能力。これを育むために必要なのは、保護者と子ども両方の努力です。帰国前と帰国後、それぞれに適した努力法をご紹介します。



笑いのツボを押さえた 反復練習で多言語能力向上

「長いあいだ他言語(第一言語)最も得意な言語(第一外の言語)にふれていても、その言語を使う場所へ旅行しているような感覚だと多言語能力(第一言語以外に他言語も操る力)を習得するのは難しい」と、『子どもがバイリンガルになる英語子育てマニュアル』(ベレ出版)の著者・高橋正彦氏は語る。特に十歳以下の子どもが他言語を習得するには、保護者も共に努力するのが望ましい。そのためにはまず、子どもが保護者の話を真剣に聞く関係性を築く

「子どもと信頼関係を築くことが大前提(高橋氏)」。

語にふれる機会を増やしていけば、多言語能力習得は難しいものではなくなる。「一番いいのは、他言語にふれさせる時に子どもの笑いのツボを押すこと。他言語を使うことが楽しくと思わせられれば、子どもは自分から覚えようとします。ですから、ちょっとした会話にも一緒に笑えるネタを仕込むんです」(高橋氏)。

また、子どもの多言語能力を伸ばすには、保護者もできるだけ他言語を使う必要があるという。「たとえば子どもにとつての他言語が英語の場合、保護者はたいていそれに自信がなくても大丈夫。確かな使い方や発音はDVDなどの教材や、周囲にネイティブがいればそ

お話を伺った方

たかはし まさひろ
高橋正彦氏

1977年生まれ。中学卒業後、単身オーストラリアに留学。2006年に長男が誕生すると、子どもをバイリンガルに育てることに成功。2010年12月、広島にて「MMSJ 英会話スクール」を開校(<http://mmsj.jp>)。著書に『子どもがバイリンガルになる英語子育てマニュアル』(ベレ出版)。



の人が教えてくれます。保護者は、一緒に他言語を使う仲間」と思ってもらえるようにするといいでしょ。ただし、中途半端な使い方はしないこと。ひとつの文章の中に第一言語(最も得意な言語)と他言語を混ぜて使ってしまうと、子どもの言語感覚は乱れてしまいます」(高橋氏)。

子どもの多言語能力をUPさせる 保護者の5つの鉄則

“笑いのツボ”をどんどん押す



無理に勉強させなくても、楽しければ、子どもは自分から進んで他言語を学ぶもの。子どもの“笑いのツボ”を押すような面白い会話を心がけていこう。

子どもと信頼関係を築いておく

「子どもが保護者の話を真剣に聞く」状況が、親子レッスンには必要不可欠。そのためにも、普段から子どもとの約束はしっかり守り、信頼関係を築くことが重要だ。



下手でもいいから保護者がまず話す

他言語にふれる機会を可能な限り増やすのが大切。自信はなくても“一緒に他言語を使う仲間”と思ってもらえるよう行動すれば、子どもが他言語にふれる機会は確実に増える。

ネイティブと接するきっかけを探す

「他言語を使う友だちと話したい」という気持ちは、他言語習得の大きなモチベーション。まずは保護者が他言語圏の友だちを作るきっかけ探しをしよう。

中途半端に他言語を使わない

「それ、ギブして」など、ひとつの文章内で第一言語(最も得意な言語)と他言語を混ぜて使うのはNG。他言語を話す際に重要な第一言語との切り替えがうまくいかなくなる。

帰国前

高橋正彦氏の
メソッド

帰国前に親子で多言語能力を育む！
他言語を学ぶ家庭の休日

多言語能力を伸ばすために、保護者が子どもと一緒にできるレッスンとは？
休日を「他言語の日」として他言語の習得に力を入れる、とある家庭の一日を追います。

20:00
就寝

就寝前にはぬいぐるみにあいさつ
いろいろなぬいぐるみに、朝とは逆で、子どもから「おやすみ」のあいさつを他言語でさせよう。保護者はぬいぐるみになりきって、いろいろな返事をしてあげよう。間違っただけ返事(おはようなど)をまぎれこませて、突っ込ませるのも◎。



19:30
お風呂

体を洗いながらその部位の単語を学習
頭をゴシゴシしながら「頭」という単語を教えたり、わきやお腹をくすぐったりして子どもを笑わせながら「わき」や「お腹」という単語を教えたりと、体の部位を他言語で説明。じゃれ合いながら、親子と一緒に楽しく学習を。



18:30
テレビ鑑賞

母語の歌が聞こえたら他言語の替え歌を！
テレビで第一言語(最も得意な言語)の歌が流れたら、保護者が他言語で替え歌を作って歌おう。と言っても1曲丸ごとではなくてワンフレーズで十分。それをとっかかりとして子どもが興味を持ったら、他言語にすぐ歌詞を少しずつ増やしていこう。



16:00
自由時間

他言語しりとりで“書く”力も伸ばす！
他言語の単語のラスト1文字をつなげるしりとり(他言語が英語であればhat→tooth→happyなど)をすれば、綴りも覚えられる。言葉に詰まっていたらヒントを出してあげたり、借り物競走のように実物を持ってくるようにしても◎。



11:00
お絵かき

一緒にお絵かきして“理由”を考える！
子どもと一緒に絵をかきする際、たとえば人間の顔の絵なら、涙やエクボなどをつけ足し、「なんで泣いているの?」「なんで笑っているの?」などと尋ねて他言語で答えさせる。表情が変わった理由を考えることで、思考力も養えることに。



7:30
朝食

ロシアンルーレットで“食べる”を楽しむ！
たとえばトーストに甘いものやちょっぴりすっぱいものなど、いろいろな味付けを。子どもに好きなものを選ばせて、どんな味がするかを他言語で述べてもらう。味を覚えながら、表現力を鍛えるトレーニングに。



7:00
起床

ぬいぐるみのあいさつで間違い探し！
数個のぬいぐるみを用意して、それぞれが言葉(他言語)を話すかのように保護者が演技。「おはよう」というあいさつの中に、朝にはふさわしくない「こんばんは」などをまぎれこませて、「おはよう」でしょ」などと突っ込みを入れさせる。



子どもが1~5歳のご家庭にオススメ
小さいうちは、いかに他言語に興味を持たせるかが重要課題です。「他言語=楽しい」というイメージを持たせられるようなコミュニケーションを!

子どもが6~10歳のご家庭にオススメ
少し大きくなったら、他言語を学ぶだけでなく思考力や想像力を養うトレーニングもあわせて。単語数を増やせるような働きかけも大切です。

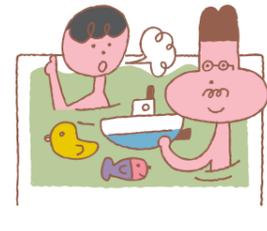
21:00
就寝

有名なお話を自由にアレンジさせよう
よく知っている物語をアレンジさせ、他言語で伝えてもらおう。まったく新しい結末を子どもに考えさせることで、発想力も養える。保護者は随所で「それからどうなったの?」などと尋ね、子どもがつづきを話しやすいようサポート。



20:30
お風呂

湯船におもちゃを浮かべて「これなに?」
おもちゃなどを湯船に浮かべ、ただ遊ぶのではなく「これなに?」と他言語で聞いて他言語で答えるクイズ形式に。他言語の文字を模ったパズル型のおもちゃなどがあれば、壁を黒板代わりに使用して、単語の綴り練習をすることも可能。



18:30
夕食後

名作アニメを他言語版で鑑賞させよう!
まずは第一言語(最も得意な言語)で物語を理解させるようにして、その後他言語版でも観せるようにすれば、理解しやすく、ストレスになりにくい。たとえば『となりのトトロ』など日本アニメの名作には、英語版で楽しめるものもある。



15:00
お出かけ

目に見えるものすべてを他言語で状況説明
家族でお出かけをしたら、「猫が車の下に隠れているよ」など、見える光景を保護者が他言語で子どもに説明しよう。時にはわざと説明を間違えて、子どもに他言語で間違いを指摘させると、より楽しく学ぶことができ効果的。



14:00
おやつ

じゃんけんでおやつ争奪戦!
「じゃんけんで勝ったほうがひとつ食べられる」などルールを決めて、親子でおやつを取り合うゲームをし、勝った時と負けた時の気持ちを他言語で表現。食事は決まった量を食べるほうがよいので、おやつ時は他言語ゲームの絶好の機会。



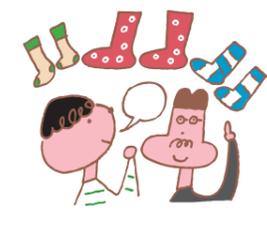
7:30
朝食

食材当てクイズで想像力や思考力も鍛えよう
料理に使われている食材を親子で順番に他言語で言い合いっこしよう。野菜や調味料など、身近な食材の名前を他言語で覚える機会にも、想像力や思考力を鍛える機会にもなる。また、和食であれば、日本の食材について教えられる。



7:00
着替え

他言語を使って着る服を選ばせよう
いろいろな服を並べて、子どもに選ばせてあげる。迷う時間が長いようであれば、最初は「靴下だけ」などからスタート。このとき、色を聞いたり、なぜその服を着たいかを他言語で答えさせることで、説明する力も一緒に養う。



お父さん
仕事の都合で海外に赴任。日本にいた頃からある程度の他言語力があり。

お母さん
夫の赴任に伴い、長男と共に一から勉強して、何とか他言語を使えるように。

長女
3歳。生まれたときから海外なので日本語と他言語、両方を少しずつ話す。

長男
9歳。5歳のときに海外に渡ったので、まだまだ日本語がベース。

帰国後に親子で多言語能力を育む！

日本語以外の言語にふれる機会獲得のススメ

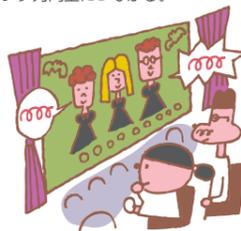
日本に帰国してから重要になるのは、日本語以外の海外で習得した言語(以下、海外習得言語)にどれだけふれさせられるかです。ここでは、おすすめの方法を六つ、ご用意しました

子どもが1~5歳のご家庭にオススメ

子どもが小さいうちは、保護者と一緒に海外習得言語とふれる機会を持つことが特に重要。楽しく使える環境に進んで入り込みましょう。

字幕付きの洋画を観に行く

海外習得言語の音声に字幕をつけて上映している映画を探して、観に行くのもいい。DVD鑑賞の場合は、副音声を上手に利用すれば、リスニング力向上につながる。



週1で海外習得言語を使う友だちと複数音声チャット

skypeなどを活用すれば、遠く離れた海外とリアルタイムで会話することも可能。週に1度~月に1度ぐらい、海外習得言語を使う友だちと会話できるようにする。



海外習得言語を使う友だちと家族ぐるみで付き合う

多言語能力を低下させないためには、日常的に海外習得言語を使う機会を持つことが必要。近くに家族で日本にきている外国人がいれば、家族ぐるみで親睦を深めるといい。



海外習得言語の使える環境を意識的に作ろう

子どもの脳は、①語彙、

②流暢さ、③不規則変化動

詞などの形態、④文法、⑤

リズム・音声の順に海外習

得言語を忘却していくとい

う研究がある。リズム・音

声はいつたん身につけばほ

んど忘却しないものだが、一

番忘却してしまいやすい語

彙であっても、海外習得言

語だけを使う場面が多くあ

れば、保持することも可能

になる。よって、帰国後は、

海外習得言語だけを使う場

面を意識的に設けることが、

保護者にできるバイリンガル

子育てのカギ。ここで紹介

したこと以外にも、海外習

得言語を使える機会があれば、積極的に利用していく

といいだろう。

子どもが6~10歳のご家庭にオススメ

少し大きくなった子どもには、海外習得言語を使わざるを得ない環境に身を置かせるのが効果的。できるだけ自発的に海外習得言語を使わせましょう。

1週間程度の短期ホームステイで海外に

子どもを1週間ほどの短期ホームステイに出し、生の海外習得言語を再び浴びる機会に。ホームステイ先は、海外習得言語を話す友だちのお宅などに依頼してはいかがだろう。



海外習得言語だけの日、日本語禁止日を作る

帰国後は、どうしても日本語を使う頻度が高くなってしまふ。そこで、週に1度ほど、家庭内では日本語を使わず海外習得言語だけで生活する日を作ってみよう。



海外習得言語を学べるスクールに通わせる

いろんなことへの興味が広がる6~10歳。家や学校以外にも、興味を広げる場所を設けてあげるといい。友だちもできる海外習得言語のスクールに通わせるのがオススメ。



帰国後